

第1章 計画の基本的な考え方

1 趣旨

現在、当別町においても少子・高齢化が進み、健康をとりまく環境の変化や住民のニーズの多様化により、生活習慣病の増加をはじめ、子どもから高齢者まで様々な健康課題を抱えています。

すべての町民が生涯を通して心身ともに健やかな生活を送るためには、住民一人ひとりがライフステージ¹に応じて主体的に健康づくりに取り組んでいくことが大切です。

そのためには、住民と関係団体や行政が一体となって健康づくり対策を総合的かつ効果的に実施できる環境づくりが必要です。

そのために「とうべつ健康プラン2¹」を策定いたします。

2 基本理念

今までは、行政が中心となって保健事業を計画し推進してきましたが、本計画では住民参加を基本とし、住民と関係団体や行政が共通理解の上に計画を策定し、当別町の地域特性に応じた健康づくりを推進します。

そこで、住民が健康づくりについての思い(あるべき姿)や意見を自由に「わいわいがやがや」と出し合える機会をもち、課題を共有し意見交換を重ね、健康づくりにつながるあらゆる活動を協力して推進できるよう、住民と協働²で当別町のオリジナルな計画と推進をめざします。

また、庁内の関係課及び関係機関・団体と連携し、それぞれの役割や特性を生かし、健康づくり推進体制の基盤を作っていきます。

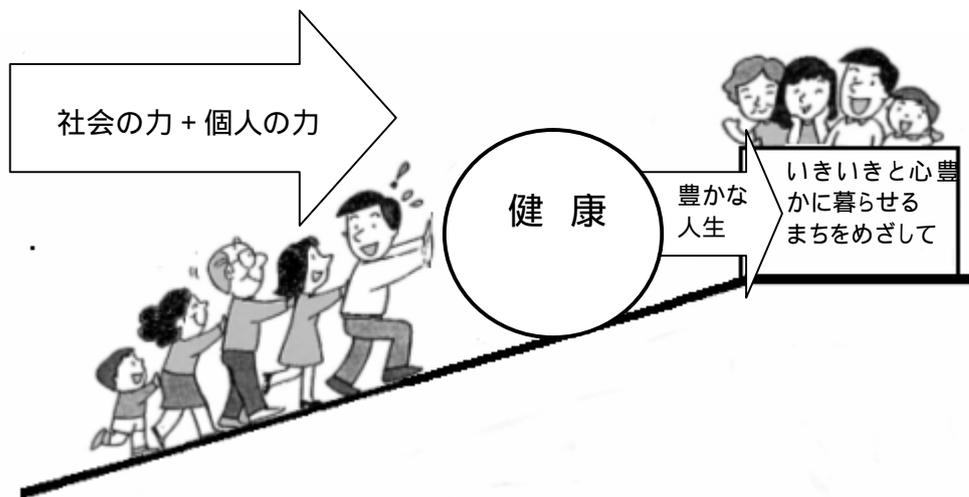
- 1: 『ライフステージ』とは、乳幼児期から高齢期に至る人生の節目によって変わる生活に着目した区分
- 2: 『協働』とは、住民と行政とが共通の目的のもとに地域の公共的課題(ニーズ)を解決するために、対等の立場で共に協力して取り組むこと

3 ヘルスプロモーションの導入

ヘルスプロモーション³の考え方は、1986年にWHO(世界保健機関)が提唱したオタワ憲章の根幹をなす新しい健康戦略です。

ヘルスプロモーションを成功させるには、地域の情報と課題を共有し、めざす目標や実践の方法を互いによく話し合っ合意していくプロセス、すなわちコミュニケーションが重要と考えられます。

本計画では、この考えを基本に、健康づくりの推進に努めます。



人は、人生という坂道を豊かさや幸福、生きがい、自己実現に向かって「健康」という玉を押し上げながら登っていかねばなりません。急な坂道をゆるやかにすることや登る力をつけることや後押ししてくれる多くの方がが必要です。

³ 『ヘルスプロモーション』とは、「健康は自分でつくる」を実践できるように個人の力と社会の力をあわせて取り組むプロセス(過程)

4 位置づけ

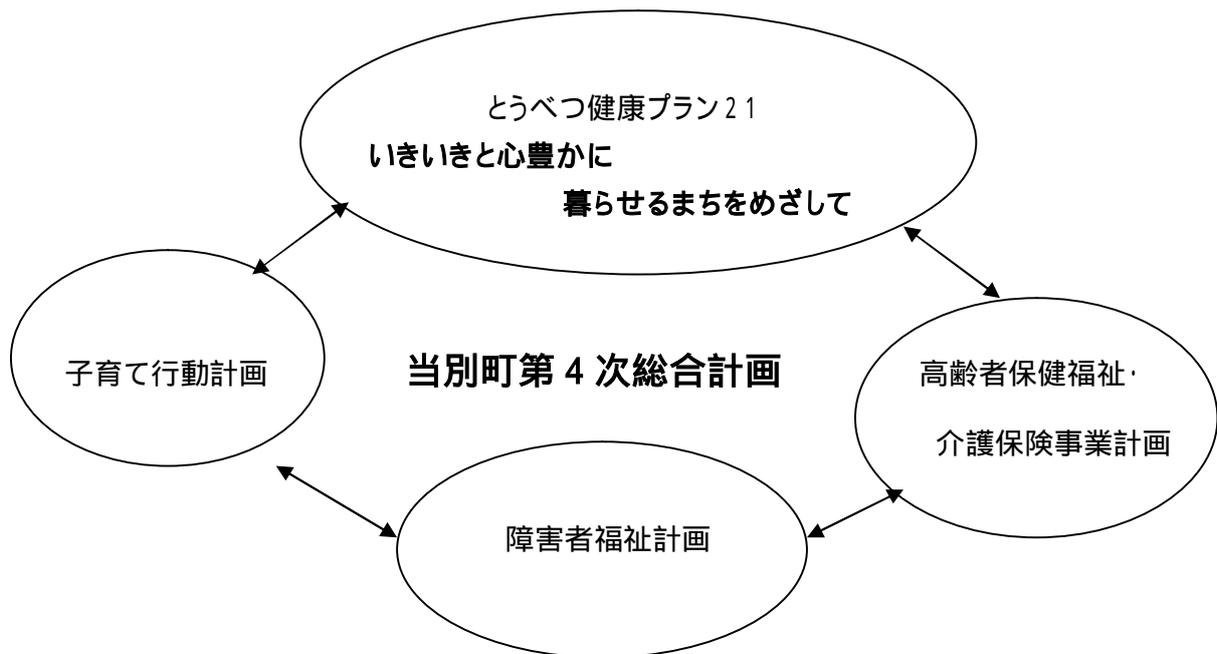
本計画は、「当別町第4次総合計画」(平成11年度から20年度)を基本とし、「当別町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」(平成15年度から19年度)、「当別町障害者福祉計画」(平成14年度から20年度)、次世代育成支援対策における「当別町子育て行動計画」(平成17年度から21年度)との整合性を図ります。

また「すこやか北海道21」(北海道)や「地域健康づくりプラン21」(札幌圏)地域健康づくり行動指針を参考にし「とうべつ健康プラン21」を策定いたしました。

当別町第4次総合計画

将来像

自然と調和し ゆとりと豊かさが感じられるまち とうべつ



5 構成と期間

平成14年7月5日に実施した予備調査(健康意識調査)で、住民が「健康づくりのために重要」と回答した項目は、1位身体活動・運動(88.4%)、2位栄養・食生活(81.2%)、3位休養・こころの健康づくり(73.9%)でした。この3項目に、大学歯学部(北海道医療大学)がある町としての特色を生かして、歯の健康(52.5%)を加えた4つを柱として、課題の整理や各年代に応じた健康づくりを検討しました。

平成15年度と平成16年度の2年間で計画を作り、1年目は「当別町の健康実態の把握」と「健康なまちづくり研修会」(職員向け・町民向け)を実施し、2年目は計画策定委員会を組織し、計画を策定いたしました。

本計画は、平成17年度(2005年度)から22年度(2010年度)までの実施期間とします。

21世紀を健康に過ごすため、長期的な視点で考え、社会情勢の変化を踏まえて、必要に応じ見直しを行います。



(策定委員会の様子)



(健康なまちづくり研修会の様子)